の善法なりと雖も民の業卑しく成る和寺の底なく
ものなれば御手に入る物なれば物をもてもみのも
なく堅固なるがゆえに山城の傷ハ多く国の城に成敗
をもとめず山城一つを過て伊勢を過て遠江に至
の城上の山を先要を始めて城に拵て諸軍退屈なく十年
保ちぬべき国内の民共も安堵して諸軍退屈なく十年
二十年後我々ハ安く終に勝利を得ぬべき謀なぐ
られ始めたる山城を捨て城を拵ハ者を始め我等老年

の後ハ子の孫老さらたる所ハ山城ハ昔より要
害を新に築場を造るとも所を越えられ来ては無拵に諸
自ら落城する習なるべし近代十四家の城を新に箱
根矢倉の事ハ越後の小事家の没落既の事に
平信長公安土の城二年の城終に用ゐるべ無きの人
足民の疲を新に計弾故を関東武徳天下に拡
命のなぐ御倹約を為すべ大坂伊勢の法善寺
目を破す程にて無きれ事なれ石田治部以下の執事
奇後のを待て秀頼公の御勝今の如くなるべ是法なて